

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	九州ネットワークケーブル(株) 第4工場	階数	地上2F		
建設地	熊本県上益城郡甲佐町大字早川	構造	S造		
用途地域	用途地域:指定無し 防火指定:無し	平均居住人員	30人		
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年11月26日		
敷地面積	38,800㎡	作成者			
建築面積	1,723㎡	確認日	2016年11月28日		
延床面積	3,236㎡	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE=1.0

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

#DIV/0!

排出率

#DIV/0!

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

77

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

80.0

71.6

75.0

76.5

■ 熊本県重点評価基準

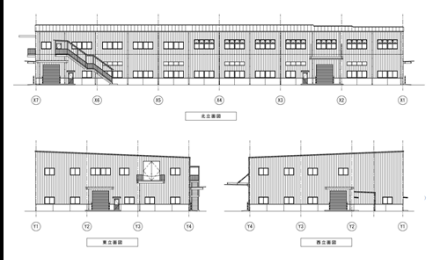
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九州ネットワークケーブル(株)第4号ビル	階数	地上2F
建設地	熊本県上益城郡甲佐町大字早川	構造	S造
用途地域	用途地域：指定無し 防火指定：無し	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年11月26日
敷地面積	38,800 m ²	作成者	
建築面積	1,723 m ²	確認日	2016年11月28日
延床面積	3,236 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.4

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.7

音環境	3.0
温熱環境	5.0
光・視環境	2.1
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

機能性	4.4
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	4.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8

生物環境	3.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.0

建物外皮の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	N.A.
設備システム効率化	N.A.
効率的運用	2.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

地球温暖化への配慮	N.A.
地域環境への配慮	3.5
周辺環境への配慮	3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 77**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 80.0**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 71.6**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 75.0**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 76.5**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

環境に配慮したシステムメーカー製品の工場建屋
JFEシビル(株)のシステム建築 「メタルビル建築」を採用

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

採光・換気は建具開口による有窓を確保
断熱性に優れた外装材, 吸音性に優れた内装材を使用

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

工場用途により大空間を確保, 建築基準を満足する構造体
内外装材はメーカー建材製品(鋼板)を適用しメンテナンスフリー

Q3 室外環境 (敷地内)

注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

遮音・吸音性に優れた外装材を使用
既設建屋と同メーカーのシステム建築を採用, 統一景観となるよう配慮

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

採光・換気は建具開口による有窓を確保
断熱性に優れた外装材を使用
照明設備は全てLEDを採用

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

システム建築の採用により工事期間を短縮
外装材は現場加工を必要としない工場加工製品
また, 耐候性・耐久性に優れた鋼板でメンテナンスフリー

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

屋根材は高反射材のガルバニウム板を採用, 水勾配を北向きとした
壁材は熱吸収の少ない鋼板色: クリームホワイトを選定

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境								3.7
1 音環境		3.0	0.15	-	-	-	-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
2 温熱環境		5.0	0.35	-	-	-	-	5.0
2.1 室温制御		5.0	1.00	-	-	-	-	
1 室温		-	-	3.0	-	-	-	
2 外皮性能	システム建築の外装材 鋼板断熱材サンドイッチパネル	5.0	1.00	3.0	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		-	-	3.0	-	-	-	
3 光・視環境		2.1	0.25	-	-	-	-	2.1
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-	-	-	
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	-	-	-	
3.3 照度	LED照明採用 500lx確保	4.0	0.15	3.0	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 空気質環境		4.0	0.25	-	-	-	-	4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	システム建築の内外装材 工場加工製品	4.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 自然換気性能	自然換気開口1/20以上確保	4.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建屋禁煙、喫煙は屋外	5.0	1.00	-	-	-	-	
Q2 サービス性能								3.8
1 機能性		4.4	0.40	-	-	-	-	4.4
1.1 機能性・使いやすさ		5.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性	工場施設により大空間確保	5.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観	工場施設により大空間確保	5.0	0.50	3.0	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	0.50	-	-	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	システム建築の内外装材 高耐候性の鋼板製品を使用	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	工場施設により管理機能の設備を配置	4.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	システム建築の内外装材 高耐候性の鋼板製品を使用	5.0	0.10	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-	-	

2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	工場施設により大空間確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	工場施設により大空間確保	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		2F床積載荷重 3,900N/m ²	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	工場施設によりスペース確保	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	工場施設によりスペース確保	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	工場施設によりスペース確保	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		自然換気開口1/20以上確保	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 - 住宅(専有部) 0.83	-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価(3a.3b)			-	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-
4 効率的運用			2.0	1.00	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		容易に分離分解出来る内外装材を使用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.5	0.50	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車・自動車の駐車施設を完備	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.50	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LED照明採用・広告物照明無し	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	屋根面勾配を北側に配置、反射光発生を低減	4.0	0.30	-	-	

建物名称 九州ネットワークケーブル(株) 第4工場

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		77
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				80	0.40	32.00
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.20			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.20			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.20			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.00			
LR1-3	設備システムの高効率化	0.0	0.00			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.20			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.20			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.6	0.20	14.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数